

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1670103496		
法人名	(有)緑の丘		
事業所名	グループホームみどりの丘		
所在地	富山市開発246番地		
自己評価作成日	令和3年6月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和3年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である思いやりと微笑みと優しさをモットーに、コロナ禍の中でも楽しく自分らしく過ごすことができるような支援を心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別のおたよりとして、2か月に1回、利用者の笑顔いっぱいの写真や近況を書いたものを家族に送っている。ご家族等のキーパーソンの方だけではなく、その方の兄弟など面会に来てくれる人全員に送り好評を得ている。 ・アットホームで温かい雰囲気や、吹き抜け天井で解放感いっぱいの静かな所で、利用者さんも庭で出来た野菜の収穫をするなどケアの温かさが伝わる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とフロアの見えるところに理念を掲げている。入職時には、理念について必ず話をしている。	法人理念に基づき事業所の目標「思いやりと微笑みと優しさ」を玄関やフロア内に掲示し、職員が確認出来るようになっている。申し送り時にも職員全体で唱和し、共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園や保育園からの訪問や地域のボランティアの受け入れや依頼を行っていたが、昨年より新型コロナウイルス感染症が流行しているため出来ていない。	コロナ流行前は町内の総会や神社の掃除などにも参加し、保育園との交流、ボランティアを招き演奏会を開いていたが、現在は出来ない。コロナ禍が落ち着いたら再開したいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が来所されたときや地域行事に参加した際に、ご利用者様やホームのこの話をするようにしている。昨年より新型コロナウイルス感染症が流行しているため出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの様子や会議開催した時点での悩みを議題として話している。地域の方の参加を増やしたいと思い演奏会などと同時開催するなど工夫している。昨年より新型コロナウイルス感染症が流行しているため、書面で報告している。	同一法人で近くにある「グループホームこちどり」と合同で運営推進会議を行っていたが、現在は法人内で話し合った事を2ヶ月に1回、議事録を自治会長、民生委員、地域包括支援センター、富山市介護保険課、家族に郵送している。運営推進会議が開催されていた時も地域の方や家族の参加があまり出来ていない。	運営推進会議録を郵送するのみのため、それに対する質問事項や要望などを聞き取ることが出来ていない。意見の反映が出来る仕組みの構築や、家族、地域の方にも伝わるよう情報の共有方法を検討、工夫しすすめていけるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の不明点があれば、随時連絡・相談している。	利用に関する不明点等の確認を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、全職員で理解を深めるように努めている。ご利用者様の安全確保のため、やむを得ず出入口の施錠やセンサーの利用をすることがあるが、ご家族の方には事情を説明している。	職員に年齢幅があるため、管理者はマニュアルを見るだけでなく、事例に基づき誰もが理解しやすいように説明し、研修に繋げている。スピーチロック(言葉の拘束)に関しては、その都度職員に指導している。また、利用者の出入り口や外フェンスの施錠は契約時家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣、トイレ誘導時に全身観察を行いアザや傷がないか確認している。チェック表を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されているご利用者様がいらしゃるので、今後も学ぶ機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に理解と納得をしていただけるように、話し合いの機会を十分に持つように努めている。疑問には随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情マニュアルを作成し、苦情届けを面会者名簿横に設置している。ご利用者様の小さな不満から対応するように心掛けている。ご家族の方には面会時に必ず声をかけお話を聞かせていただいていたが、新型コロナウイルス感染症が流行してからは機会を作ることが難しくなっている。	月1回発行の「みどりの丘だより」では沢山の写真を取り入れ利用者の表情を伝えたり、2か月に1回利用者個別の便りも家族に送り、生活の様子を家族に伝えている。しかし、苦情や要望に対応し、ケアには反映されているが、他の利用者や家族には周知できていない。	利用者や家族から寄せられた意見や、事業所の良い所、改善する所など検討した内容を広く周知することが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや個別面談を利用して、職員の提案や要望を聞くようにしている。職員から相談があれば随時面談を行っている。	管理者もケアに入ることにより、他の職員と気軽に話すことが出来、職員からの要望や意見、提案が聞き取りやすい。法人代表者と共有しながら随時運営に反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に職員の話聞き、職員の心身の状態や家庭環境を把握し、配慮するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示している。昨年より新型コロナウイルス感染症の流行や人員不足により、研修の参加は思うようにできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年より新型コロナウイルス感染症流行のため、交流を深めることが難しくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時や入居前に、ご本人様・ご家族様と話をする時間を設け、不安が軽減され、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談・面談には柔軟に対応し、ご家族様が初期の段階から気軽に相談していただけるように努め、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様が必要としている支援をご家族様と一緒に見極め、他のサービスや事業者の情報もお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様ができることを見極め、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど声かけをしている。ご利用者から積極的に「やらせて」と声がかかることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際、ホームでのご様子を必ずお伝えしているが、新型コロナウイルス流行のためご家族様の来所も減っている。現在は近況を写真付きで郵送し、お伝えしている。電話でご家族の話を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、友人や親類の方の訪問はほとんどない。電話をご利用者様に繋いだり、手紙をお渡ししたりしている。ご家族様とは扉越しの面会や電話にて随時対応している。ご家族様との外出は感染防止のため遠慮いただいている。	コロナ禍で、馴染みの人の訪問は少ない。Web面会は整備されていないが、電話や訪問は可能となっている。しかし、ガラス越しでの対面なので、耳の遠い人には聞き取りにくい。そのため同時に電話も取り入れ、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士、一緒にレクリエーションを楽しむことが出来るように支援している。ご利用者様同士が関われるようにこれからも支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子をご家族様や退居後に他施設を利用されていれば施設に電話にて伺っている。直接ご利用者様を尋ねることもある。その際、ご家族様からご相談などあれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、担当職員がご利用者様の思いや意見を必ず聞き取り反映するようにしている。意思表示が困難な場合には、ご家族様や職員から意見を聞き、本人の思いに近づけることができるように努めている。	一人ひとりの思いや希望を聞き取り、ケアに生かしている。聞き取りが困難な場合は、日常生活の様子や表情などから読み取り、全職員で話し合い意見交換を行っている。また、家族からの要望や意見を聞いて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様にセンター方式の記入にご協力いただき、生活歴や馴染みの暮らし方を職員間で共有するようにしている。ご利用者様との会話の中から聞き取りをしたり、ご家族様に入居前の様子を伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を作成し、一日の過ごし方や状態、支援したことを記録している。記入した記録を見て申し送りを行い、一人ひとりの状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい生活を送ることができるようにご利用者様・ご家族様の希望を取り入れた介護計画作成に努めている。課題などがあつた場合は、申し送りなどで随時検討・実施できるようにしている。	介護計画の作成は、モニタリング担当者からの情報記録から、職員で話し合い意見交換を行っている。家族の要望や意見を取り入れ作成している。急変時や介護保険の更新時に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の変化・会話・行動・ケアプランの評価を記入している。変化が見られた場合には、モニタリングやケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様から希望があつた場合には柔軟に対応できるようにしている。昨年より新型コロナウイルス感染症が流行しており、外出を伴う支援はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、ボランティアの方、介護相談員の方に話をいただいているが、昨年より新型コロナウイルス感染症が流行しておりできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月心療内科と内科のかかりつけ医の往診がある。入居前と同じかかりつけ医を希望される方は引き続き受診できるよう支援している。必要時には歯科往診も対応している。	入所時にかかりつけ医から協力医療機関に変更された利用者もある。月1回、協力医と精神科医の訪問診療があり、他の医療機関には家族が付き添って受診している。受診時は、事業所が作成した診療情報をかかりつけ医に渡しスムーズに情報が伝わるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいないため、管理者は主治医との連携を密にとり適切な対応をとることができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の状態については、かかりつけ医と連絡を密にし、早急な対応ができるようにしている。入院先には、サマリーなどで情報提供を行っている。ご家族様や入院先の地域連携室を通して、病院スタッフと情報交換を行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針としてターミナルケアは行っていないが、可能な限りホームでの生活を継続していくことができるように主治医・ご家族様と連携をとり、対応できるようにしている。	入所時に看取りは行っていないことを説明している。夜間帯は協力医、看護師の協力体制が築けていない。	利用者の状態が変わり、住み馴れたところで最期を迎えたいという本人や家族からの要望に応えるために、マニュアルを作成して全職員が研修を行う等、看取りに向けて協力体制を築くことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と連携をとり、急変時の対応について学ぶようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回通報訓練・避難訓練を行っている。運営推進会議開催時に実施し、地域の方にも参加していただけるよう努めているが、新型コロナウイルスが流行してからはできていない。消防職員立ち会い時には、水害や地震時の対応についてアドバイスをいただいている。備蓄も行っている。	年2回、火災訓練を実施している。地震は同一法人であるグループホームこちどりと合同で行っている。水害時はこちどりが避難場所になるため、訓練を行う予定であったが、コロナ禍で中止となっている。終息すれば訓練を行う予定である。備蓄品は3日分程度準備出来ている。	水害時のマニュアルも作成し、全職員で研修を行い訓練を実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かしまった話し方をして欲しくないと言われるご利用者様もおられ、個々に合わせた声掛けを心掛けている。常にご利用者様への尊厳を念頭において対応している。	一人ひとりの個性や性格を把握し、相手を思いやる心で声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提供する際に、種類や温度を選んでいただくなど、日常生活の様々な場面で利用者が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まってはいるが、食事の時間やレクリエーションの参加の有無などは、その方のペースや希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルス感染症流行中のため美容院へ出かけたり床屋さんに来所していただいていたカットが出来ない。ご希望される方には、職員がカットとカラーを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配・下膳、茶碗拭きは利用者様から申し出があり日常的にいただいている。天候を見てお弁当を作り外で食べる。お菓子作りを行うなど、食への楽しみが増えるよう努めている。	畑で採れた新鮮な野菜を使って料理を楽しまれている。職員は利用者と一緒に同じ食事を並べて摂りながら利用者の姿勢など常に配慮している。コロナ禍から外食を控え施設内で楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1300ml/日を目標にしている。食事、水分とも提供するもの、提供する時間帯や場所などをご利用者様に合わせて変え、必要量が確保できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、ご利用者様に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄の間隔などを把握し、個々にあった時間にトイレで排泄ができるように声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表にて個別の排泄間隔を把握している。トイレ誘導や介助にあたっては、きちんと戸を閉めるなど、利用者の尊厳やプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の排便間隔を把握し、便秘の方には牛乳などの乳製品を提供するなど工夫している。排便については主治医に往診時報告、連絡を取りながら適宜整腸剤・緩下剤を使用することがある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間は決まっているが、拒否があった場合は無理強いせず清拭・更衣を支援している。他の日に入浴日を設けることもある。	入浴は3日に1回で午前8時から12時迄と決まっていますが、利用者が入りたいときにいつでも入浴することができる。拒否があれば日にちを変更したり清拭、着替えを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、良い睡眠がとれるように支援している。昼食後に休息の時間を設けているが、個々にあった過ごし方をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局があり、処方があるときは薬剤師より使用上の注意点や説明が必ずある。記録に残したり申し送りにて共有している。服用後、変化があった場合には主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様やご家族様からの情報やセンター方式にて生活歴の把握を心掛けている。新型コロナウイルス感染症が流行してからは、外出を楽しむとしている方に散歩のみの支援しかできていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気浴に出ている。その他の外出は新型コロナウイルス感染症流行中のため全くできていない。	コロナ禍から行動範囲を制限しているが、周辺の散歩や、玄関先での外気浴、野菜作りや花壇づくりなどを楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用様は基本的に、お金を所持しない。ご希望があれば、手元に持っていては、ご家族様には、無くなる可能性もあることを必ずお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば随時対応している。ご家族様から電話連絡をいただいたときに、ご利用者様につながることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩中に、共同スペースに飾る花を探すことがご利用者様方の中で流行しており、一緒に探して飾っている。季節の飾り物をご利用者様と製作している。フロアと居室には室温計を設置し、定期的にチェックを行い快適に過ごしていただけるよう空調管理を行っている。	共用空間には七夕飾り、貼り絵、ひまわりなどを飾り季節感を表している。和室で休んだり、ソファで会話を楽しむ利用者の様子から、居心地の良さがうかがわれる。冬は掘りごたつでテレビを見てくつろいでいる。利用者と一緒に掃除機かけ、モップ掛けを行い、共に居心地のよい共有空間づくりができるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の個室がある。気の合う入居者同士で話ができるよう共用空間内での場所を作っている。ご利用者がどなたかの部屋に集まって話をされることもあり、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使っておられた物を持ってきて頂きたいと依頼している。自室に、ご家族との写真を飾る方、観葉植物を置いて育てられる方などおられ、心地よく過ごしていただけるように支援している。	居室のベッド、冷房、防災カーテンは備え付けである。が、タンス、布団、家族の写真、サイドテーブル、椅子などは各自持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にネームプレートを表示、トイレなど主要なところには、ご利用者様に分かりやすい位置にいくつかの呼称でプレートを表示している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りについては現時点では行っていない。利用者様が体調不良や状態の重度化した際は職員から不安の声が聞かれることが多く、看取りに至っては未知の世界のことに感じている職員が多い。	看取り介護について職員が前向きに身近なこととして捉えることができるようになる。	重度化、終末期について施設内研修を実施することで学ぶ機会を作る。看取りに対するマイナスイメージを払拭する。新型コロナウイルス感染症の終息後には施設外研修に職員が参加できる機会を設ける。	12ヶ月
2	35	水害が発生した際の避難について避難の基準、避難場所までの誘導についてなど対応について職員間で周知、訓練できていないため不安がある。	全職員が水害時に、状況に合わせた行動をとることができるようになる。	水害マニュアルを作成し研修を通して周知する。新型コロナウイルス感染症終息後には水害を想定した避難訓練を実施し、動きについて確認する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。